

【はじめに ～今年一年～】

師走・12月、今年も残すところあと2週間となりました。皆様方にとってどのような一年でしたか。

過日(12/12)、今年の漢字一字が発表されました。今年の漢字は「金」。夏のパリオリンピック・パラリンピックでの日本選手の大活躍や政治問題で取り上げられているお金に関する話題性から、この漢字が選ばれたようです。

今年の干支「辰」年は、努力をすれば実りやすいとか、「龍」の字から力溢れる活気づくような年になると言われていました。

私自身、4月から教育長の大役を仰せつかり、これまで40年近くの教職で培った経験が生かされる分野もありましたが、全く新たな事柄に直面し、必死で一から学ぶ日々、気がつけばアツという間に今を迎えていたというのが実感です。何より、多くの方々と出会い、更に見聞を広めていくことの大切さを知りました。たとえ初対面であっても、こちらがしっかりと心開き、お話しをしていく中で、とても意味のあることを知り得るチャンスが到来します。

人生「我以外皆我師(われ以外みなわが師)」。あらゆる人、物、事に対し、常に謙虚に学ぶ姿勢でいかねばと思います。

さて、今年も自然の驚異は、人の人生や運命を大きく狂わせるとともに、日々の暮らしに大打撃を与えました。元日早々から起こった「能登半島地震」では、多くの方々が犠牲となり、一年たった今も、復興・復旧に向けた取り組みが続いています。また、今夏の猛暑はことのほか厳しく、子どもたちの活動にも影響が出ました。「異常気象」という言葉を、近年何度も耳にしていますが、ただ不安を募らせるだけでは、次の世代につなぐ「力」には決してなれません。

ここ平群町には、町民の防災意識の向上や、子どもたちの未来づくりに向け、様々な行事やイベントの開催、趣向を凝らした活動などに、年月をかけて取り組んでくださっている多くの方々や各種団体の方々がおられます。人は人を支え、人に喜びや幸せを送り届けることが出来ます。

迎えます「巳年」。一説では、「植物に種子ができはじめる時期」「次の生命が誕生する時期」など、新しいことが始まる年になると言われています。また、巳(み)と実(み)を掛けて、「実を結ぶ」年という意味もあるそうです。

皆様方にとって、令和7年(2025)年が、良い年となりますこと心からお祈りいたします。

以下は、今年、特に印象の強かった出来事から、私から子どもたちに伝えたいメッセージとして記載しました。ご一読いただければ幸いです。

【大谷翔平選手と「野球・ベースボール」】

今年、我が家では、「大谷選手、今日も打ったの?」が、まるで朝の挨拶のように交わされていました。

大谷選手を、「異次元のプレーヤー」などと称賛する言葉はたくさんあります。今年からチームが変わり、新たな環境の中であるにも関わらず、いきなり大記録を打ち立て、人々の記憶に残る鮮烈な活躍が出来るという、本当に凄い選手だと思います。生まれた国が違って、野球にあまり詳しくなくても、多くの人々が彼の活躍を話題にできるという、とても幸せな瞬間に出くわしてい



ると感じます。

先日、大谷選手が、今年もメジャーリーグの「MVP選手」に満場一致で選ばれたことを伝えるテレビが、彼の野球への取り組み方について解説をしていました。

彼は、「オートテリック・パーソナリティ（自己目的的性格）」の持ち主だということでした。全く聞いた事のない言葉、その意味は次の通りです。

「オートテリック・パーソナリティ」とは、利益や報酬や評価といった外から与えられた目的のためでなく、自分が今行なっているその行為自体に喜びや楽しさを見出しやすい性格的特性のこと。

つまり、大谷選手の野球に対する取り組み方は、誰かに言われたからやっているのでも、やらないといけないからやっているのでもなく、やりたいと思うよりさらにその先にある、「楽しいからやる！」という最高の次元にある。

盗塁成功後や、ホームランを打った後、また三振をした後でさえ、大谷選手の表情からは「本当に野球が好きで好きでたまらない！」という感じが伝わってきます。

大谷選手の野球にかかる情熱と欲のない取り組み方が、最良の結果につながっていることを意味しているのでしょう。

【2024ノーベル平和賞「日本被団協」受賞と詩人「谷川 俊太郎」さんを偲んで】

今年のノーベル平和賞を「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）」が受賞され、先日、10日に現地ノルウェーのオスロ市庁舎で授賞式が行われました。

私は、この受賞のニュースを10月に知った際、改めてこの方々が今日まで取り組んでこられた事の重大さに気づかされました。それは、ノルウェーのノーベル委員会が「日本被団協」に授与する事を決定したその受賞理由を、ニュースで聞いた時のことです。

『ヒバクシャ』である広島と長崎の原子力爆弾の生存者による草の根運動（民衆一人一人の湧き上がるように起こる運動）は、核兵器のない世界の実現に尽力し、核兵器が二度と使われてはならないことを自らの証言で示してきた。「この『ヒバクシャ』の証言こそ『唯一無二』のものである。受けた筆舌に尽くしがたいものを描写し、考えられないことを考え、核兵器が引き起こす理解が及ばない痛みや苦しみを、我々が理解する一助となっている」と、さらに「今この地球上で起きている戦争では、核兵器が脅しに使われている。人類史上、今こそ核兵器とは何か思いをいたすことに価値がある。」と強く訴えています。

話が変わりますが、詩人、谷川 俊太郎さんが先月13日に92歳で亡くなりました。

私が、谷川さんの詩を知ったのは、30年ほど前、あるコーヒーのCMで使われていた次のページの「詩」に出会ったことがきっかけです。その時は中学校に勤務しており、谷川さんの詩を使った「道徳」の授業を行ったり、「学級通信」にメッセージとして伝えたりしてきました。

以下は子どもたちへの問いかけです。

もし君たちが、この詩にサブタイトルをつけるとするならば、どんなタイトルをつけますか？

「つながり」でしょうか？ それとも、「バトン」あるいは『平和』かな？

この詩の中には、人の温もりであったり、願いであったり、決して誰も奪うことの出来ない「幸せ」が、しっかりと詰め込まれています。

今、この時だからこそ、世界中の全ての人々にこの詩を届けたいと思います。

この世の全ての人に、この詩を読んでもらえることを強く望みます。

たとえこれから何年先であろうと、私たちのこの地球（ほし）がある限り、受け継がれ、語り継がれなければならない。

平和は、今の時代はもちろん、この先の未来を生きる人々のために守られなければならない普遍的なものだから。

【朝のリレー】 作：谷川 俊太郎

カムチャツカの若者が きりんの夢を見ているとき
メキシコの娘は 朝もやの中でバスを待っている

ニューヨークの少女が ほほえみながら寝がえりをうつとき
ローマの少年は 柱頭を染める朝陽にウインクする

この地球では
いつもどこかで朝がはじまっている
ぼくらは朝をリレーするのだ
経度から経度へと
そうしていわば交替で地球を守る

眠る前のひととき耳をすますと
どこか遠くで目覚まし時計のベルが鳴ってる
それはあなたの送った朝を
誰かがしっかりと受けとめた証拠なのだ

【おわりに～応援の力～】

私事ですが、先日、4年ぶりに今年の「奈良マラソン10Kmの部」に参加しました。

少し気温は低めでしたが、マラソン日和に恵まれ、3,867名の方々とともに、晩秋の古都を気持ちよく走らせていただきました。

奈良マラソンと言えば、沿道の方々から寄せられる声援の凄さが有名です。

今年も、スタート地点で「生駒中学校吹奏楽部の皆さんの演奏」に送られ、1キロ付近では各種団体の方々による「和太鼓演奏」、県庁前では「ほら貝」の音色が響き渡るなど、伝統の応援に励まされました。そして、至る所で手作りのプラカードを掲げたり登り旗を振ったりしながらの応援や、小さな子どもたちをはじめ道の左右を埋めつくす多くの方々からの途切れることのない温かな拍手と「がんばれ～！」の声援の中を走っていると、自然と力がみなぎってくるという不思議な感覚を味わうことができるのです。

「応援の力」は人に大きなエネルギーを与えます。

私たち教育委員会は、引き続き、子ども・保護者・地域の皆様方、そして、学校・園を応援し続けてまいります。

